

---

# **営業時間の短いパン屋さん**

飴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

営業時間の短いパン屋さん

### 【著者名】

NO334N

### 【作者名】 飴

【あらすじ】  
洋子が一人できりもりするパン屋にある日から少女が通い出して。  
・

この町には一軒のパン屋がある。洋子という女が一人で切り盛りしている店だ。午前3時になると店から香ばしくて良い匂いが漂ってくる。

洋子は朝4時から朝8時までしか店を開けなかつた。なぜかと問われることは多かつたが、いつも薄く微笑むだけだつた。それでもパンの評判は上々で、身一人、生きていくには十分だつた。

1年ほど前から、見たところ小学校高学年ほどの色白でかわいい少女が、アップルパイを一つ買いに来るようになつた。一日一つ。朝6時に。

毎日来るので洋子と少女はだんだんと会話もするようになった。名前はユウだとか、どこに住んでいるだとか、母親が病氣で寝込んでいるだとか、小学校はつまらないけど勉強は好きだとか。

少女の口数は徐々に増えていった。少女とのおしゃべりを洋子は楽しんでいた。

小学校の夏休みも後半に入ったある日、少女は来なかつた。洋子は心配はしたが、やはり8時には閉店した。

洋子が4時から8時までしか店を開けない理由は、特に大きな理由もなかつた。ただ、毎日を自分の思うように過ごしたい、それだけだつた。8時半には朝食を食べ、洗濯と掃除をし、文庫本を読みながらお茶を飲む。午後に少しのパンとお菓子を仕込み、味見を兼ねてまたお茶をする。夕食を夜6時にとって、9時には寝てしまう。そんな生活スタイルを崩さず生きていくのが好きだつた。

翌日もユウは来なかつた。どうしたのだろう、と思いつつもいつ

ものスタイルを貫き、次の日の仕込みのため買い物に出た。

途中、本屋に寄るとユウが居た。洋子が声をかけるとびくつしながらも少し影の差した笑顔を見せた。「最近お店に来ないね」と話しかけると、「うん」と重い返事をしただけだった。あまり詮索するのもどうかと思つた洋子はそこでユウに「また来てね」と別れを告げ、田町での本を買って店を出た。

夏休みも終わる頃、朝6時に少女はやつてきた。

「おひさしふりね」洋子が優しく話しかけると、ユウは軽く会釈で返した。

「夏休みももう終わりね」

「うん」

「最近はどうしてたの？宿題？」

「うん、お母さんがね・・・」

「そつか、お母さん、病氣で大変だつたんだよね」

「死んじやつたの」

そう言つと小さい体を屈め、声を押し殺して大粒の涙を流しはじめた。

「そう」と言つと洋子は何も言わずにその小さい体を優しく包んだ。

その日だけは8時を過ぎても店は開いていた。

9時を過ぎた頃、閉店した。

泣き止んだユウと一緒に朝食をとり、一緒にお茶をした。いろんな話しされた。ユウの母のこと、母がアップルパイが大好きだったこと、父が既に他界していたこと。

ユウは話の途中途中何度も泣いたが、その度洋子は優しく抱きしめた。

この少女はこれから先何を支えに生きていいのだろう。父も母もなく、まだ少女の身一つでどうして生きていくのだ。

「今日からうちに住まない？」

「でも・・・悪いです」

「今は自宅に一人暮らし? 女の子が一人暮らしなんて危ないわ。それにお金もないでしょ?」

「それは・・・」

「いいからうちに住んじゃいなさい。ちょうどビアルバイトが欲しいと思っていたの」

「ほんとに? ここに住まわせてもらつてもいいの?」

「良いのよ。じゃあ早速明日の分の仕込みに使う材料を貰つてきてもらおうかな。その前に、アップルパイ食べる?」

コウはまた涙をこぼしながら「うん」と頷いた。

そうして洋子と少女の一人暮らしは始まった。

翌日から、開店時間は朝9時までではなく、昼12時までになつた。

二人で十分暮らしていく分の時間を働き、ティータイムのある生活スタイルは相変わらず。洋子の話し相手は文庫本からコウに変わったのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0334n/>

---

営業時間の短いパン屋さん

2010年10月21日21時56分発行